

集落支援員だより

第17号

発行者 東和地域集落支援員
連絡先 66-2490
発行日 令和3年2月22日(月)



談話

地域を想う人紹介

ゲスト

今回は、佐藤一男さん（針道）
にひと言いただきました。



針道地区 農地利用最適化推進委員
佐藤 一男さん

今年の冬は雪も多く、まして寒さも厳しく、近年になく底冷えするような日々が続いているようです。大方の予想では昨年同様、暖冬ではないかと言われておりますが、一方では本年も異常天候になるのではと心配されています。

今年は丑年、古来よりの農作業において牛は欠かせない動物であり、その歩みから、物事は一步一步前進する、そんな願いをしつつ、今年も我が地域も牛歩のごとく前進できればと皆が願っております。

耕作放棄地の解消に向けて

杉内集落内でも、中山間事業をはじめ、様々な事業を展開しながら大切な農地を守っており、できるなら耕作放棄地等を増やさないようにと仲間に働きかけ、田畑の維持・管理を進めております。

思うに、今後は、若い人たちにも農業・農家に目を向けてもらえるよう、その地固めをするのが我々の役目であり、各自が円満に次の世代に引き継がれるような集落づくりを進めていきたいと思っています。

田畑の音獣被害

また、近年、当地においてもインシシが増えはじめ、多くの田畑に影響を及ぼしているようです。農家の方々は電気柵を設置したり、農をかけてもらったり農地への侵入を防ぐ工夫をしていますが、いずれも完全な方策ではありません。また、最近新たに猿の出没もあり、一部野菜等を荒らしているようです。その原因として考えられるのは、人の手が入らなくなった近隣の山林が育ちすぎたため、里山が荒廃し、本来山で賄われていた野生動物への食糧が少なくなってきたのではないかと考えております。

いずれも人の手が届かなくなれば、そこに荒廃化が進み、里山環境を脅かすことになるのではないのでしょうか。早めの手立てが必要と思われまます。

里山の将来

これからは、どの地域でも少子高齢化により、年々人口が減少する傾向にあります。私たちの集落もその真っ只中にあります。これからの集落づくりは、人口が少なくなれば少ないのアイディアを出し、自分たちの地域は私たちが守り、力のある農山村となるよう努力していきたくと思っています。

取材

地元で頑張っている人

戸沢羽山区 熊谷英一さん
りんご農家

熊谷英一さんは、りんご農家を引き継いで2年目。子供の頃から休まず働いている父親の姿を見ていたので、りんご農家とは大変な仕事だと常々思っていた。しかし、2年前、突然父の一夫さんが他界し、約1町7反歩のりんご畑と2反歩のさくらんぼ畑をどうするか、という切羽詰まった状況になってしまい

ました。熊谷家は祖母を筆頭に7人家族であり、一家が路頭に迷うことは避けなければ、という使命感から、熊谷家の農家を継ぐ決意をいたしました。



戸沢羽山区
熊谷 英一さん

父の偉大さ

とにかく何も知らない素人がりんご農家を継ぐということは容易なことではなく、マニュアルがあるわけでもない。そこで手始めにりんご生産のノウハウを得るために、果樹栽培のテキストを買って熟読し、はたまた地元の先輩方の協力、応援をいただき、なんとか2年目を迎えることができました。そこで改めてりんご農家の難しさと父の偉大さに身をもって悟ったといえます。

地域の協力とつながり

今の耕作面積はりんご1町7反歩あり、そこでは王林、つがる、

ふじなど6種類約1000本植樹され、さくらんぼも2反歩植樹されています。先輩方の協力により、2年目を過ぎたいま、ようやくりんご農家の入り口付近にたどり着けたのではないかと。



▲ 手塩にかけた羽山りんご

りんごづくりは一人前になるには二十年はかかると先輩方は言う、自分にはりんご生産に関する知識が不足しており、それらを補う時間もほしいということとです。今年も一月の中旬から剪定作業に入り、そのあとは施肥作業と順次多くの作業で切れ目なく忙しくなっています。りんごづくりは天候にも左右されますが、いまやらなければならぬ作業の時期を遅らせることになれば、必ず生産や品質に影響されるといふ厳しい現実もあり、またやりがいのある仕事でもあります。

た。今後は少ない農家でもお客様に美味しいと喜ばれる品質の良いものを生産し、また若者を呼び込めるような魅力のある集落づくりを目指し実践していきたい、と力強く話してくださいました。

隠れ文化財
黄金伝説

住吉山金探掘跡

今から約1200年前(大同年間西暦800年代)、当時の征夷大将軍坂上田村麻呂が蝦夷征伐のため、奥州一円を統治していた。当時の勢力の強さが現在の東北地方の様々な場所に足跡を残している。



▲ 住吉山城址案内版

その実績としては、宮城県角田市の斗蔵山神社の創建、秋田県高根金山、阿仁銀山、吹屋銀山などの金銀探掘、様々な事業を手掛けていた。福島県の田村市も坂上田村麻呂の田村を用いたのではないかと伝えられている。

西谷金山

太田西谷区でも黄金伝説があり、西谷住吉神社の峰々を掘削し、大小十六ヶ所

もの坑道があるといわれ、それぞれに名前がついており、「神楽まぶ」、「住吉まぶ」、「大まぶ」、「すり鉢まぶ」など、現在8カ所の坑道が確認されている。ちなみに、「まぶ」とは鉱山などの坑道の呼び名であり、今もこの名が使われている。



▲ 「住吉まぶ」の入り口

西谷金山の廃坑には、石英粗面岩の岩脈の中に良質の金が含まれており、文明3年(1471年)に石橋義衛が吉代の四本松城より住吉山城主となり、金探掘にあたったと言われ、その金が山吹色であったと伝えられている。

その後、近隣の豪族との勢力争いが生じ、幾度となく城主が変わり、のちに伊達政宗がこの地を領したのも、金山が一番の目的だったのではといわれている。

今、時が過ぎ、集落の方々は、数年前まで内部の劣化状況確認のため、坑道に入り確認作業を行っていたが、今ではほとんどの坑道の入り口付近は、自然に帰りつつある様子であり、唯一「大まぶ」

だけが風雪に耐え昔の面影を残している。

金山の名残

また、西谷集落には当時からの地名として陣場、本町、田町、道場、本所山など昔の名残があり、山を掘り進むための道具を作る鍛冶屋も数軒あったといわれ、金の精錬所跡地も確認されている。「兵どもが夢の跡」とはよく言ったもので、この地はかつて相当の栄華を誇った地域であったということは紛れもない事実である。ただ、この金山の開発に坂上田村麻呂が関わっていたかどうかは、文献等での確認はされていない。

今後、この金山の保全管理をして後世に残していくということはなかなか難しいとは思いますが、この地に宝の山があったという黄金伝説を次世代に伝えていくことも、地元の人にとっては大切なことではないでしょうか。

— 編集後記 —

「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。

どんな小さな活動でも取材に行きますので、載せたい情報等がありましたら、集落支援員までご連絡ください。

感染症予防には手洗いうがいの徹底はもちろん大切ですが、自己免疫力を保つために適度な運動、バランスのとれた食事、十分な睡眠も大切です。

東和支所地域振興課(集落支援員)
問い合わせ先: 66-2490(直通)